

教育総合データベースの活用と留意点

目 的

これまで	- 各種調査・アンケートのデータは個別に管理・活用されるにとどまっていた。 - データを確認したいときに、データを探す作業から始めなければならなかった。 - 複数の調査結果を見比べながら子供一人ひとりの状況を検討することは、膨大な手間がかかり、現実的ではなかった。
これから	- データの一元化と一覧化により、必要なデータの検索や加工に係る負担を軽減する。 - データを活用することで、各教員が目線を揃えて話し合いができるようになり、児童生徒への効果的な「見守り」「見届け」を行えるようになる。 - データの活用が進むことで、収集・整理が必要なデータが一層明確になり、活用が深化する。

教育総合データベース、ダッシュボードの構築と今後の活用

本市では子供たちの支援・指導の充実に繋げるため、子供に係る様々なデータをワンストップで確認できるように教育総合データベースを整備している。あわせて、当該データを抜粋し、グラフ等でビジュアル化した「ダッシュボード」を構築し、様々なデータを効率的に確認できるようにした。

ダッシュボードには全ての学校管理職・教員がアクセス可能（一部ダッシュボードは管理職のみにアクセスを限定）。

管 理 職

- ＊過去データや市の平均と比較等を行うことで、**学校・学級レベルの課題を特定**すること
- ＊必要に応じて個々のデータを参照すること
- ＊管理職のみ閲覧可能な情報については、**教職員の支援や指導のために活用**すること

利用可能なダッシュボード

- ・児童生徒ダッシュボード
- ・学校×市平均ダッシュボード
- ・授業がわかる調査集計（管理職用）



教 職 員

- ＊過去データや市の平均と比較等を行うことで、**担当学年・学級レベルの課題を特定**すること
- ＊個々のデータを参照し、**個別の指導や支援の参考**にすること

利用可能なダッシュボード

- ・児童生徒ダッシュボード
- ・学校×市平均ダッシュボード



例 ダッシュボードの活用フロー

STEP 1 気付き



日常の授業や指導の中で、学習状況や行動に課題を感じる子供を把握

STEP 2 分析

- ①ダッシュボードにアクセス
- ②担当学年、クラス等でフィルタリング
- ③気になる児童生徒のデータを確認



児童生徒の各種データの概要を確認し、課題等の特定に活用



ダッシュボードに整理された様々なデータを確認することで、子供の現状把握や分析に活用

STEP 3 支援



見守り、声掛け、面談、ぱれっと・きゃんばすルームへの接続等

留 意 点

以下の点に留意の上、学校経営、学級経営、個別指導のためにデータを活用する

- ・差別的な取扱いをせず、適切な現状把握や分析に役立てるようにする
- ・個々の子供たちの成長や伸びに注目する（平均値との比較に囚われない）
- ・数値化できない情報があることも認識し、データを鵜呑みにせず、経験や勘も引き続き大切にする
- ・情報の取扱いに注意する

教育データ利活用に関するガイドライン

